

# 紙本墨書「天台寺本堂再興勸進帳」の調査を通して

20230902 二戸市シビックセンター

由利本荘市教育委員会 高橋 正

## 1. 八葉山天台寺（はちようざんてんだいじ）について

- (1) 岩手県二戸市浄法寺町御山の古刹。寺伝によれば、開山は行基で奈良時代神亀5年（728）に聖武天皇の命をうけて、八峯八谿の当山を八葉山と名付け、山中の桂の大木を刻んで、本尊を聖観音菩薩とし、宸筆の寺号を額として掲げ開山し、その後平安時代に慈覚大師が諸像を刻んで再興したと伝えられる。
- (2) 聖観音菩薩立像（重要文化財）は平安時代中期のお像で「桂泉観音」「御山の観音さま」とも呼ばれる。前面は頭部と両腕を除き鈍彫、背面にはノミ痕がなく平滑に仕上げている。霊木に宿るカミが観音の姿によって化現する状態を表現したと評価される。

## 2. 勸進帳（かんじんちょう）について

- (1) 勸進は社寺や仏像などの造立修補や經典刊行などのために、信者や有志にその費用を寄進させ、仏縁を結ばせることをいい、その趣旨や目的を書いて寄付を募るときに用いる文書のことを勸進帳という。勸進牒、勸進状、勸化帳、禅宗では勸縁疏（かんえんしょ）幹縁疏、勸進疏等とも呼ばれる。
- (2) 奥に寄進の品名、数量や、寄進者の名前を記入する奉加帳が付いたものもある。
- (3) 勸進のための興行として勸進田楽（南北朝期から記録が見られる。寺社の勸進を名目として興行された田楽）や、勸進相撲（社寺修築、公共土木事業の経費を広く世人の喜捨に仰ぐ意味から木戸銭を取って見物させる相撲興行）などがあった。
- (4) 歌舞伎の勸進帳は歌舞伎十八番の一つで、能の「安宅」の小書の「勸進帳」を名題とした。初演は天保11年（1840）で、義経の一行が奥州落ちの途中加賀国安宅の関で、富樫左衛門に見とがめられ、弁慶の苦忠によって逃れるという筋書きで、白紙の勸進帳を読み上げる場面が有名。

## 3. 天台寺本堂再興勸進帳について

- (1) 趣旨－本堂修理の必要性とそのために勸進を行う
- (2) 内容
  - ・天台寺の由緒→行基菩薩神亀五年念仏所を始む、聖武天皇の御願所と号し、  
仏閣を一字七軒に構う
  - 入仏の軌則をもうけ、天に幡蓋花鬘を結び、地に綾羅錦繡をしく

- ・ 仏像の由緒→行基名仏を刻彫し三十余室に峙う  
→運慶仁王を造作す。眼勢忿怒威惶、鬼神眉を雛む
- ・ 天台寺の繁栄→大堂の前に衆徒三九六坊をたて、三時の法則いまだおこたらず  
→左方の高山に権現は垂迹し、和光の衆生は首に如意をしき徳用を成弁す
- ・ 正平2年の天台寺再興と修理の必要性についてについて  
→正平二年仮の巧匠の事看々今の御堂是なり  
→上葺き風に随い。天雨御真体に近づく、板敷きは朽ち、已に千草室内に茂る

(1) 作成年代と作者

- ・ 時に天正五年（1577）丁丑（ひのとうし）四月吉日
- ・ 武蔵所生真言沙門假名海翁 實名榮澄→武蔵国出身、真言宗の僧
- ・ 此料（原文は「米へん」に「斤」）帛浄蓮寺周光合力也  
→浄蓮寺の周光が料紙調達に尽力した

4. 中世の勸進帳について（自治体史等で確認可能な資料）

- (1) 承久元年（1219）10月泉涌寺勸縁疏（俊苧）【国宝】
- (2) 文安4年（1447）3月融通念仏勸進帳（良忍）【重要文化財】
- (3) 南北朝時代 後小松天皇宸筆融通念仏勸進帳【重要文化財】
- (4) 永正5年（1508）6月慈恩寺金堂造営勸進帳（沙門敬白）
- (5) 永正11年（1514）羽賀寺本堂勸進帳（沙門敬白）【県指定】
- (6) 永禄9年（1566）正月平安城五条大橋造立勸進帳（沙門敬白）
- (7) 天正5年（1577）天台寺本堂再興勸進帳（榮澄）
- (8) 天正11年（1583）備中国吉備津宮勸進帳（沙門某敬白）

5. 本資料の価値について

- (1) 中世における同時代資料が少ない天台寺において、天台寺の縁起や由緒を伝える資料として貴重。

<天台寺の中世関係資料>

- ①正平18年（1363）銘の鰐口
- ②元中9年（1392）銘の銅鐘
- ③応永16年（1409）観音籤筒
- ④永享4年（1432）6月27日天台寺寄進文書（二通）
- ⑤永享5年（1433）6月12日天台寺寄進文書

- (2) 東北において類例の希少な中世の勸進帳として貴重。

佛子敬白

桂泉勸進帳

右

十方檀那成

本堂破壞

一心無二

愚蠢短才

任

仏子敬白(うやまつてもうす)

桂泉勸進帳の事

右は

十方に檀那の助成を蒙り

本堂破壊の修造をせんと欲す

一心無二に丹精を抽んで

愚蠢短才(ぐしゅんたんさい)なれど

一文を綴る

情以(つらつらおもんみれば)

一切の衆生は本有(ほんぬ)

月輪(がちりん)なりといえども

朝に法性(ほつしょう)を覆う妄雲(まがぐも)に従

つて未だ生死(しじ)の闇(やみ)を照(て)らさず

塵数(じんしゆ)諸尊(しよそん)満つといへども多

く眼(まなこ)を遮(さ)えきり吠(わ)きわがず

観(くわん)察(さつ)智(ち)用(よう)不(ふ)識(し)を転(てん)じて

一仏(いつぶつ)の立つ

哀哉(あゐ)有(あ)る為(ため)色法(しきほふ)に耽(た)ん(ふけ)り

更に解脱(げつたつ)の種(たね)を殖(う)えず

悲哉(あゐ)閻羅(えんら)獄(ごく)率(そつ)の鉄棒(てつぼう)に懸(か)かり

永(とこ)く叫喚(きよかん)の火坑(かきよ)

うに墮(お)る

一切衆生本有月輪覆

法性隨有亦未照至无

塵数法為備多遮眼不

観察智用不識一仏立

哀哉有為色法に耽り

更に解脱の種を殖えず

悲哉閻羅獄率の鉄棒に懸かり

永く叫喚の火坑に墮る

讀

奥州糠部郡詔桂泉三尊

然る処本有法身如来衆生の為に

樓(やぐら)を作る大悲に乗じて

まさに権現觀世音(ごんげんくわんせおん)に用ふべし

寔是(まこと)にこれ

自然(じねん)湧出(ゆうしゅつ)の生身(しょうじん)

最極(さいごく)大悲(だいひ)の心地(こころ)唯(ただ)此(こゝ)の一尊(いつそん)に属(ぞく)す

然(しか)といへども当機(たうき)の契(けい)無(な)きによつ

暫(しば)くその所住(しよじゆ)を知らず

漸(ようやく)純熟(じゆんじやく)の時剋(とき)を得(え)て行基(ぎよき)

菩薩(ぼさつ)神龜(しんき)五年(ごねん)念仏(ねんぶつ)所(しよ)を始(は)む

聖武(せいぶ)天皇(てんかう)の御願所(ごくわんしよ)と号(な)し仏閣(ぶつかく)を

爰(こゝ)に

奥州糠部郡に桂泉と謂う靈地在り

然る処本有法身如来衆生の為に

樓(やぐら)を作る大悲に乗じて

まさに権現觀世音(ごんげんくわんせおん)に用ふべし

寔是(まこと)にこれ

自然(じねん)湧出(ゆうしゅつ)の生身(しょうじん)

最極(さいごく)大悲(だいひ)の心地(こころ)唯(ただ)此(こゝ)の一尊(いつそん)に属(ぞく)す

然(しか)といへども当機(たうき)の契(けい)無(な)きによつ

暫(しば)くその所住(しよじゆ)を知らず

漸(ようやく)純熟(じゆんじやく)の時剋(とき)を得(え)て行基(ぎよき)

菩薩(ぼさつ)神龜(しんき)五年(ごねん)念仏(ねんぶつ)所(しよ)を始(は)む

聖武(せいぶ)天皇(てんかう)の御願所(ごくわんしよ)と号(な)し仏閣(ぶつかく)を

一宇七間に構う

已

偈入佛刹天結備蓋花鬘  
地敷綾羅錦繡十長行言  
音響響隆空响疑天人

樂 加之

行基刹殿名佛時三十余室

况復

運手造作二王眼勢忿怒威  
但鬼神救眉圓山成就趣如斯

從尔以來

山名八葉山寺号天台寺

已(すでに)

入仏の軌則を備(もう)け天に幡蓋  
花鬘を結び

地に綾羅錦繡(りようらきんしゅう)

を敷く修法読経の言音

響珞(ようらく)羅網(らもう)に響き

天人の伎楽に疑(なぞら)う

加之(しかのみならず)

行基名仏を刻彫し三十余室に

峙(そな)う

况復(いわんやまた)

運慶仁(二)王を造作す

眼勢忿怒威惶鬼神眉を皺(しわ)む

開山成就の趣斯の如し

從尔以來(それよりこのかた)

山を八葉山と名づけ寺を

天台寺と号す

觀史

大堂亦衆徒堅三九六坊三時

丁則未解天長地久御願

乞佛力は平等大會

禽獸三密を唱え自ら楽しむ

去者(さらば)法花は鳥の如く空を

飛び下は乃至自然に妙声の説を

出ず左方の高山に権現は垂迹し

和光の衆生は首に如意を播き徳

用を成弁す

右の谿は渴仰に帰す仍つて水の

流れに真如法性の月を浮べ信前

の邪聚の罪垢を洗う 誠に此の

山は八葉九尊の質(もと)

視夫(それあおぎみれば)

大堂の前に衆徒三九六坊を

堅(た)て三時の法則未解(おこたら)

ず天長地久御願円満の仏力を乞

う後に平等大会(だいえ)園広々

禽獸三密を唱え自ら楽しむ

去者(さらば)法花は鳥の如く空を

飛び下は乃至自然に妙声の説を

出ず左方の高山に権現は垂迹し

和光の衆生は首に如意を播き徳

用を成弁す

右の谿は渴仰に帰す仍つて水の

流れに真如法性の月を浮べ信前

の邪聚の罪垢を洗う 誠に此の

山は八葉九尊の質(もと)

可謂都率内院玉同空參  
 行華五世撥北方薩難振  
 像中七珠世界之領門を  
 始開は入る門  
 重八  
 為森與修仁正平二年假  
 逆事者、余欲堂是已  
 柳江日石天竺五、百歳  
 過經す仏法靈領を貪り仁王百代

都卒の内院と謂つべし然間一度  
 参詣の輩在世には他方の孽難  
 (げつなん)を揆(のぞ)き懷中に七珍  
 を招く他界の夕には頓(ぬかずきて)  
 無始の間隔を断じ深く定門に入  
 る

方今(まさにいま)

再興の時代を尋るに正平二年假  
 の巧匠の事

看々(よくみるに)今の御堂是なり  
 抑陰仏の日西天の雲五々百歳を  
 過經す仏法靈領を貪り仁王百代

終語王法茂初奉豈及仁  
 室於修於肆上齊隨風天雨  
 御真体極敷朽己子尊茂  
 室内宜必有修誓發誓以誓  
 願後仍身國家者初ま、俗  
 念の堂候理

終に王法を謗(そし)り勅命を蔑  
 (ないがしろ)にす豈仏室の加修に  
 及ぶ耶肆に上尊き風に随ひ天雨  
 御真体に近づく板敷きは朽ち  
 已に干草室内に茂る爰に有縁の  
 聖をもつて無比の誓願を發し  
 仍つて身を投じて國家の普く真俗  
 に勧め彼の堂の修理を企つ

重九  
 然中正觀音六趣随一人道  
 主而一切衆生喜花偏(情)  
 眞意炎亦不香(品)  
 樹牙齋(雨)微(煩)惱(煩)惱(煩)

重九(かさねてこう)

就中正觀音は六趣の随一人道の  
 主にして一切衆生を洒(あたため)  
 蓮花の滴(曇)悲(しんけい)の炎を消す  
 所以は普門品甘露の法雨を澍  
 (そそ)ぎ煩惱の焰を滅除す

如何況

一金一兩乃至一紙半錢の財

施においては現世に自在の

神力を得福智を保つこと雲

の如し命期には三尊の紫雲

に乗じて

来迎の御手に授かる勸進帳

の趣蓋(けだし)以斯の如し

本願沙門敬白

于時天正五年丁丑四月吉日

惟聖身龍門原上五回筆跡待三會曉

一卷の書を帰真(寄進力)し奉る志趣は大慈大悲の利生

を蒙り二世の悉地を成就せしめんがためなり

平らに招(もと)む心中の所願を叶え給え譬五三季短命な

りとも心中の大願を成就せしめ給うのみ

三密の修行の次で此の国に下り西門にて一年を送る一代

の折角言宣及ばず

武蔵の所生真言沙門仮名海翁

実名榮澄(花押)

此料帑淨蓮寺周光御合力也

- 1 十方 (じつぼう) あらゆる方角、場所。あらゆる世界
- 2 丹精 (たんせい) 真心を込めて物事をする事
- 3 抽んで (ぬきんで) ぬき出して。抜いて中からとりだして
- 4 愚蠢 (ぐしゅん) 考えや行い、言葉などが愚かである事
- 5 短才 (たんさい) 才能が乏しい事
- 6 衆生 (しゅじょう) 生きとし生けるもの。命ある一切の生物
- 7 本有 (ほんぬ・ほんう) 生まれてから死ぬまで本来備わっている事
- 8 月輪 (がちりん) 衆生に備わる心を清浄な満月にたてたもの。真如の月。「がつりん」ともいう。
- 9 法性 (ほっしょう) 一切存在の真実の本性、真如、実相
- 10 妄雲 (もううん) 悟りを妨げる煩惱
- 11 生死の闇を照らす 仏法により世の中が明るくなる事
- 12 塵数 (じんじゆ) 塵の数ほどあるという意味から無数を表す
- 13 不識 (ふしき) 知らずに行った罪
- 14 有為 (うい) 因縁によって起こる現象
- 15 色法 (しきほう) 物質的存在 (心法)
- 16 閻羅 (えんら) 閻魔の敬称
- 17 獄卒 (ごくそつ) 地獄で亡者を呵責するという鬼
- 18 叫喚 (きょうかん) 叫喚地獄。呵責に耐えず号泣、叫喚する
- 19 火坑 (かきょう) 火の坑。欲の恐ろしさを例えていう
- 20 生身 (しょうじん) 衆生を救うためにこの世に生まれた肉身
- 21 大悲 (だいひ) 衆生を苦しみから救い出す仏の広大な慈悲
- 22 当機 (とうき) 相手の素質・能力に応じた導き方をする事
- 23 神亀 (じんぎ) 五年→七二八年
- 24 幡蓋 (ばんがい) 幢幡 (どうばん) と天蓋 (てんがい)  
仏堂の上部を荘厳する
- 25 花鬘 (けまん) 仏堂の荘厳具の一つ
- 26 綾羅錦繡 (りょうらきんしゅう) 美しく豪華な衣装
- 27 瓔珞 (ようらく) 仏像の天蓋や建築物の破風などに付ける  
垂れ飾り
- 28 加之 (しかのみならず) そればかりではなく、その上に
- 29 威惶 (いこう) 大きな力におそれかしくこむ
- 30 三時法則 (さんじほつそく) 早晨 (そうしん) 哺時 (ほじ)  
黄昏 (たそがれ) の坐禅
- 31 大会 (だいえ、たいえ) 規模の大きな法会
- 32 園 (えん) 天子の墓
- 33 禽獸 (きんじゅう) 鳥や獣。恩義を知らず道理をわきまえない人のたとえ
- 34 和光 (わこう) 穏やかな衆生
- 35 成弁 (じょうべん) 願いなどを認めて叶える事

- 36 都卒の内院 (とそつのないいん) 将来仏となるべき弥勒菩薩  
の住む所。外院は天衆の住む所
- 3837 孽難 (げつなん) わざわい
- 38 七珍 (しっちん) 七種の宝物、金・銀・瑠璃・玻璃・しゃこ  
珊瑚・瑪瑙
- 4039 無始 (むし) どこまで遡っても始めのない遠い過去
- 41 定門 (じょうもん) 禅定門。仏門に入り剃髪している者
- 42 巧匠 (こうしょう) すぐれた大工。その仕事
- 44 六趣 (ろくしゆ) 六道に同じ。地獄、餓鬼、畜生。阿修羅  
人間、天上の六つの迷いの世界
- 443 瞋恚 (しんけい) 自分の心に逆らう者を怒り恨むこと
- 444 普門品 (ふもんぼん) 法華経第八卷第二十五品
- 45 法雨 (ほうう) 仏法が衆生をあまねく教化する
- 46 命期 (めいご) 生きながらえている期間。寿命
- 47 龍門原上の土に埋ずむといえども (りゅうもんげんじょう)  
中国の白居易の遺文の序、肉体は葬られたとしても
- 48 三会 (さんえ) 仏が成道の後、衆生済度のために行う事に  
なっている三度の大説教会
- 49 大慈大悲 (だいじだいひ) 仏の限りなく大きな慈しみのこと
- 50 利生 (りしょう) 仏が衆生を利益すること、またその利益
- 51 悉地 (しつち) 密教の修行によつて成就した妙果
- 52 折角 (せつかく) 力を尽くすこと、困難、特別